

令和3年10月15日付

昇段レポート

昇段受験日 令和3年8月7日

この度は初段昇段審査受験の機会を与えて下さり、ありがとうございます。阿部師範はじめ、道場の仲間、応援頂きましたご父兄の皆様、そして一緒に空手を続けてきた家族に心から感謝致します。七年前、武道の精神と礼儀作法を学ばせる目的で長男に続き次男が入門。稽古を見ていた所、一般部の方に誘われ、いつの間にか私も入門していました。

私は小学生から社会人までサッカーを続けており、格闘技の経験は全くありませんでした。その為、サッカーのキックの癖（蹴りっぱなし）が抜けず、空手の膝を抱え込んで蹴る動作が出来ず、数年も要しました。不器用な為、阿部師範と道場の先輩方に丁寧にご指導頂き、コツコツ努力し技術を磨いてきました。6級に昇級してからは、組手の大会にも出場させて頂きました。きっかけは次男と一緒に出場する大会で親子ダブル優勝をするを合言葉に妻と長男のサポートを受けながら数多くの大会に出場。ダブル優勝は叶いませんでしたが、いくつかの大会では一緒に入賞する事が出来き、喜びを分かち合えました。

色々な経験を積み、昇段審査を受けられるまで来ましたが、コロナの影響もあり、組手稽古も審査一カ月前まで出来ませんでした。更にぎっくり腰で調整が難しい状態ではありましたが、週末は施設を借りてミット打ちとランニング、自宅での筋力トレーニングで追い込み、食生活では野菜中心メニューで体調管理にも気を配り、万全な状態に仕上げ10人組手に挑みました。10人組手では長男と次男と組手をする事が出来き、最高な時間と一生の思い出になりました。10人目の阿部師範との組手では、これまでの稽古や試合で培ってきたものを全て出し切るつもりで挑みました。ガス欠でしたが、残り10秒ラッシュで師範と攻防出来たので達成感と感無量でした。

今後は輝心会の黒帯に恥じないよう、更に精進し己を磨きたいと思います。 押忍

中村 俊之